

掛け布団として“理想的な羽毛ふとん”にリフォームします

羽毛ふとんに入っているものは **ダウン** と **フェザー**

ダウンが50%以上のものを羽毛ふとんと呼びます。(50%未満は羽根ふとん)

ダウン ⇒ ガチョウ(グース)、アヒル(ダック)の胸のやわらかい毛の部分

フェザー ⇒ スモールフェザーという細かい羽根

羽毛ふとんの優れた特徴

- 非常に軽い
- 嵩がある
- 保温性に富む
- 吸湿性と放湿性(発散)に優れている



羽毛の飛び出しを防ぐ側生地

羽毛は小さな繊維のすき間や縫い目からすり抜けて飛び出します。

羽毛布団の側生地の布はダウンが飛び出さないよう、ダウンブルーフ加工を施すのが一般的です。

※ダウンブルーフ加工

熱とローラーで生地の織り目を潰し、糸の隙間を小さくする。

しかし、ダウンブルーフ加工は、ダウンの飛び出し防止の代償として、通気性や透湿性という性能を犠牲にしていますので、5年もすると、羽毛は皮脂や湿気で汚れ、暖かさや羽毛の吸湿性なども失われてしまいます。⇒ **リフォームが必要**となる訳です。

羽毛ふとんは **側生地選びが重要**

1. 通気性が良い
2. ガサガサと音がしない
3. しなやかに身体にフィットする
4. 軽量

最適な側生地と組み合わせることにより
羽毛の優れた性能が生きてきます

側生地の素材

長綿 ⇒ 綿花から摘み採った繊維

シルク ⇒ 蛾の幼虫の蚕(カイコ)の繭から作った繊維

合繊 ⇒ 有機低分子を重合させてつくった高分子を原料とする化学繊維

羽毛ふとん側生地の主流は“超長綿”(ちょうちょうめん)です。

※ 原綿の繊維長さ

平均長 2.1mm 以下

・・・ 短繊維綿

平均長 2.1mm超~2.8mm 未満

・・・ 中繊維綿

平均長 2.8mm 以上

・・・ 長繊維綿

平均長 3.5mm以上

・・・ **超長綿と呼ばれて珍重**されています



超長綿は繊維が長いので、糸がしっかり絡まってほどけにくく、軽くてしなやかな薄い上質の布生地となります。

肌触りが良く、均質で強度があり、毛羽立ちが少なく自然な光沢があります。

原綿から糸に紡いだ時の太さ(番手)により、生地の柔らかさが違います。

番手の大きい方が細くなり柔らかくなります。

※ 1ポンド(453.6g)の綿繊維を840ヤード(768.1m)の糸にした時の太さが1番手60倍の60番手は50,400ヤード、80番手は67,200ヤードの長さにした太さです。

◆ 北國寝具の指定品 ◆

おまかせ柄 ⇒ 中国製 超長綿60サテン(撚糸)

無地、柄指定 ⇒ 日本製 超長綿60サテン・超長綿80サテン(撚糸)ソフト加工